

平成 29 年度 第 6 回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録(要旨)

開催日時 平成 29 年 12 月 5 日 (月) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
開催場所 御菌総合支所 会議室 2-4
出席委員 市川知律部会長、嶋垣智之委員、浦田宗昭委員、森見典子委員、
光山佳津美委員、鬼頭由華委員
事務局 障がい福祉課長、障がい福祉係長、主査
(庶務担当) 伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 2 名
傍聴者 0 名

1 あいさつ

(課長) 前回までの議論いただいた第 5 期障害福祉計画・第 1 期障害児福祉計画(案)は、今週からパブリックコメントを実施し市民から意見もらう段階になっている。本日は、地域生活支援拠点チームに関する議論が中心になると思うが、よろしくお願ひしたい。

2 地域生活支援拠点について

●地域生活支援拠点チーム担当委員からの報告

(担当委員) チームの活動経過について。第 5 回目の会議実施し、先進事例の確認、障害福祉計画アンケート結果確認、必要な支援の初期分析等を実施した。

チームの議論から提案へのスケジュールイメージの確認。これまでの当事者会・家族会へのヒアリング結果や緊急事態の事例、計画相談からの不足資源の報告、障害福祉計画アンケート結果等から、ニーズの抽出、必要な支援の分析を行い、H30 年 6 月までに整備骨子の提案していく予定。

○障害福祉計画のアンケート結果からの分析

- ・将来暮らしたい場所は、自宅希望がどの障がい種別でもトップである。生活していく上での困り事は、急な体調不良時や緊急時の対応が、どの障がい種別でもトップである。自宅で暮らしていきたいが、緊急時が心配。このことから、自宅生活を続けるためには拠点の緊急対応機能等の必要性が高いといえる。
- ・緊急時に何があれば安心かについては、24 時間の相談支援体制が平均してどの障がい種別でも高い。いつでも利用できる短期入所が知的障がいのある方でトップ、精神の障がいのある方では精神科医療体制がトップ、緊急事態に気付いてくれる人などが上位となっている。
- ・生活の中で不安な事については、家族からの自立・家族が居なくなった時の生活がほぼどの障がい種別でもトップ。日常の介護者の変化への不安が高い。このことから将来を考えるための拠点の「体験機能」等が必要。
- ・今後、特に充実すべき施策については、支援の質・量の向上を望む意見が多い。このことから、専門性の向上等は、拠点の「人材機能」が必要である。また、相談支援への希望が平均して高く、移動支援、短期入所、グループホームが障害別により希望が高い。

○家族会・当事者会、支援者のニーズ調査からの分析

- ・地域生活を安心して継続していくために必要な支援については、緊急時対応、相談の希望が高かった。
- ・緊急時に必要な支援については、24 時間ヘルパー、24 時間相談支援、いつでも利用できる短期入所、外出・移動支援、緊急事態に気づいてくれる人、という意見が高かった。

- ・将来の生活等を考えるための体験等をする際に臨むことについてはグループホームの体験機会、適切な人員体制が高かった。
 - ・希望する支援の専門性については、障害特性への適切な支援を望む意見が高かった。
- 相談支援事業所のアンケート調査から。
- ・拠点の整備にかかり求める事は、説明・周知の機会が高かった。
 - ・緊急対応を行う為に困る事・必要なことは、早朝夜間土日祝日の対応の必要性が高かった
 - ・地域定着支援を実施するにあたり課題になる事は、24時間体制が高かった。
 - ・専門性向上等にあたり困る事は、外部研修参加体制、人材の確保が高かった。
 - ・地域の連携等に関して課題・必要と思う事は、サービス種別ごとに集まる機会の希望が高かった。
- 居宅介護事業所のアンケート調査から。
- ・拠点の整備にかかり求める事は、説明・周知の機会が高かった。
 - ・緊急対応を行う為に困る事・必要なことは、人員体制・人員不足が一番高かった
 - ・体験利用を行う為に課題になる事は、障害特性の理解、体験内容の設定、早朝夜間休日の体制が高かった。
 - ・専門性向上等にあたり求める事は、参加しやすい研修機会、障がい特性による対応が高かった。
 - ・地域の連携等に関して課題・必要と思う事は、サービス種別ごとに集まる機会が高かった。
- 入所・通所・短期入所事業所のアンケート調査から。
- ・拠点の整備にかかり求める事は、説明・周知の機会が高かった。
 - ・緊急対応を行う為に困る事・必要なことは、人員体制、早朝夜間土日祝日の対応、他事業所等との分担連携の日調整が高かった
 - ・体験利用を行う為に課題になる事は、適切な報酬、人員体制、本人の支援情報が高かった。
 - ・専門性向上等にあたり求める事は、参加しやすい研修機会、外部研修への参加体制が高かった。
 - ・地域の連携等に関して、課題・必要と思う事は、サービス種別ごとに集まる機会が高かった。
- 訪問看護事業所のアンケート調査から。
- ・拠点の整備にかかり求める事は、→周知・説明・研修の機会、検討への参加が高かった。
 - ・緊急対応を行う為に困る事・必要なことは、適切な報酬、緊急連絡先、通院等への外部支援が高かった。
 - ・体験利用を行う為に課題になる事は、訪問看護は医師の指示なので体験利用は不可能が多かった。
 - ・専門性向上等にあたり求める事は、内部・外部研修参加が高かった
 - ・地域の連携等に関して課題・必要と思う事は、他分野との連携機会が高かった。

以上のまとめとして、

- 「緊急対応機能」については、
- ・家族に何かあったときに、一時的に安心して生活を送れる場所が確保されていることで、本人も家族も安心した地域生活にしていけると良い。
 - ・介護者が、将来病気の場合などを考えて入所を検討せざるを得ない状況。
 - ・緊急時に安心して利用できる短期入所があると良い。
 - ・上記等が確認されており、家族等に何かあっても緊急時等を安心して過ごすことができる環

境があれば自宅などでの生活を続けたいとのニーズに整理される。これらから「緊急対応機能」が求められていると考えている。

○「相談機能」については、

- ・緊急対応事例において、利用中の相談支援事業所、家族の支援関係者などへ第1報が入る現状である。
- ・営業時間や委託相談の相談時間も過ぎている場合の連絡の取り方。
- ・計画相談に緊急連絡が入ってもすぐに対応できない面もあり、緊急時に連絡がついて駆けつけられるようなセンター的な所が必要。
- ・緊急の時に適切に相談できる場所がほしいとのニーズに整理にされる。

○「体験機能」については、

- ・家族が、家族以外の支援に安心して任せられる事や、家族以外の支援を利用して地域で前向きな生活を送るといふ本人の将来像を具体的に安心して描くことが出来ると良い。
- ・ご家族も、現状の支援（通所のみ）以上に第3者の支援を利用しようとはされない状況で、家族も本人も、家族からの自立というイメージは持てない状況がる。
- ・成人したら家族から自立した生活も送れることで、家族に何かあった時でも本人の生活が大きく変化させられることがなく安心した生活が続けられるように出来ると良い。
- ・先々の生活を選択するには、体験を重ねてこそ選択が出来るものである。
- ・将来の生活や家族からの自立を考えるにも、生活の選択肢が分からないとのニーズに整理され、これらから「体験機能」が求められていると考えている。

○「人材機能」については、

重度の障害がある母の日常生活が、支援資源の不足により娘の介護なしでは成り立たず、娘が自分の将来を描けない状況がある。専門的な対応が出来る支援を量的にも確保してもらいたいといった状況が確認されており、支援・資源の量・質ともに拡充してほしいとのニーズがある。これらから「人材機能」が求められていると考えている。

○「地域づくり機能」については、

地域において様々なニーズに対応できる支援体制の構築が必要であるとのニーズに整理され、「地域づくり機能」が求められていると考えている。

以上も踏まえ、緊急対応機能、相談機能を求める声が多いこと、地域生活支援拠点についての理解度が深まっておらず、周知説明機会を求める声が多いことを、確認した。

チームの今後として、各種ニーズ等の調査結果をもとに、不足資源を抽出していく予定。

また、拠点の対応範囲（災害時・支援の質向上等）を検討していく必要がある。

(事務局) 市の整備スケジュールとしては、H31年度、32年度と2か年かけて整備していく。

どこから進めるか、面的整備で進めるのかという議論が、チームからの提案や部会でもあると良い。スケジュールを整理すると、H31年度予算をH30年9月に予算見積るため、それまでの8月に施策推進協議会本会で整備方針提案を決定、その前の7月に自立支援部会で確認、またその前の6月の地域生活支援拠点チームで提案まとめというスケジュールになる。

【各委員の主な意見】

(部会長) 今後のチームの議論のあり方については、地域生活支援拠点に求められる5つの機能を全て一度に議論するのは難しいため、議論をしていく優先順位が必要ではないか。

(委員) 骨子提案の6月までのスケジュールで、今後毎月順番に1つずつ機能を議論すると6月までにまとめられるのではないか。市の望む骨子提案とは、どの程度をいうのか。

(事務局)整備骨子として、①整備方法について、面的整備が望ましいのか多機能整備か。②2年間の整備スケジュールについて、どの機能が優先的に必要か。③各機能の優先順位の根拠付けについて、提案していただけると良い。

(委員)5つの機能の総論は6月までには行いたい、各論は優先機能のみについて掘り下げる形で進めることとしたい。チームの今後につて、今後毎月1回会議を行い、12月は5つの機能について議論の優先順位を付ける。1月～5月に拠点の5つの機能を毎月1つずつ検討する。6月に骨子提案へのまとめという流れで、取り組みたい。

(委員)地域生活支援拠点の対応範囲として、例えば災害時にも緊急対応が必要だが、災害時対応の中身を拠点チームで議論するのではなく、別の災害対応を検討している大きな枠組みとの住み分けを行い、そこへの情報提供等の連携を図っていく形になるのではないか。

(委員)現在の市の災害対策の現状・枠組みも分かりにくいので、チームに伝える必要があるのではないか。地域生活支援拠点では、もっと日常的な、個別ケースへの緊急対応機能しか想定していないのではないか。災害対応に向けて、個別の情報を持っている支援機関として協力できる事は何か等は、もっと先で詰めていく事ではないか。

(事務局)どこまでを災害対応と捉えるのかについては、まず市では個別避難支援計画をそれぞれの地域が主体となって作成するという取り組みを推進している。避難所対応については災害対策本部が取り組んでいる。自治会が取り組む個別避難支援計画について、計画相談やサービス事業所等に協力して頂けると良いが、まだそこまで取り組みが進んでいない。

(部会長)緊急事態の予防機能について。個々のニーズ捉えて支援方針を立て、緊急対応にならないようにという予防の視点を持つ事が必要。困難事例の事例検討ではなく、緊急対応事例の検討を積み重ねる事で、今後に応用できる視点や対応の共有をはることができると、予防や人材機能に繋がるだろう。

(委員)緊急時に工夫対応している事業所の実践事例の発表会もあると良い。基幹型が行う人材育成と連携し、先進的過ぎない好事例の紹介等があると良い。

(委員)周知説明の機会について。地域生活支援拠点についての周知説明機会を求める声が大きく、報告会の開催を検討している。

(委員)地域生活支援拠点について、各法人の現場レベルや、各法人上層部まで理解頂く必要がある。アンケート結果からも、サービス種別ごとに集まる機会が欲しいという声大きい。年度当初に又村あおい氏に地域生活支援拠点の機能等は説明してもらったが、実際に拠点の機能を担当している人からの事例報告があると理解しやすいのではないか。

(部会長)地域生活支援拠点チームと自立支援部会が連携・協力を重ねて、提案を形にしていく必要がある。部会への協力依頼があれば、次回も報告してください。

(委員)優先機能について、優先をつけるにあたって、相談機能が重要になるだろうと考える。そこから始めたら良いのでは？

(委員)緊急の夜間の対応は、訪看で対応してもらった例が2件あった。ただ、訪看からの事後報告だった。連絡がつけば手伝えることがあったのではないかと思った。

(委員)計画相談が緊急対応をしている。一人暮らしで体調を崩して計画相談に連絡入るのが2件あった。一人で心細く、どうしたらよいかとの連絡。24時間対応できる相談機能は必要だろう。

(委員)24時間相談窓口は、みんなの安心になる。夜間はどうしたら良い？と聞かれる事は多い。24時間繋がるのは安心だろう。

(委員)計画相談の緊急対応事例として、緊急対応して救急車呼んで同乗し、長時間の対応になった

こともある。

(委員)緊急対応事例として、サービスに繋がっていない方で高齢の親との同居の中で、急に親が亡くなったという事があった。本人は家事が出来たし親戚支援もあるけれども、一人で生活が出来ない方だった場合等は、緊急受入れがあったらと思う。

(委員)緊急対応事例として、家族への暴力等に至り、緊急事態になったケースがあった。夕方で、基幹型等が開所時間だったので連携できたが、夜間だったらどうなっていたか心配である。

(委員)予防視点の事例として、台風のためヘルパーが訪問できず、警察に協力してもらいベッドへ寝かせてもらったという事例があった。日ごろから短期入所を体験しておくとの話はしていたが、ご本人は家が良いと言われ、利用の決断がしにくかった。ただ上記台風の件がきっかけでデイサービスの利用が始まった。

(事務局)現在、面的整備を進めるのかどうかも確定してない。チームには、面的整備ならどの機能を優先的に整備していくのか、その根拠は、等の提案をして頂きたい。

3. その他

○「ライブスペース伊っ勢の！」について、担当委員からの報告

- ・第3回実行委員会等が終了し、名称は「伊っ勢の！」。自立支援部会は共催との立場。
- ・ポスター決定し、500枚を各実行委員で配布している。
- ・当日(1/10)前に、最終会議の予定。

○施策推進協議会(10/26)の報告(事務局)

第5期伊勢市障害福祉計画・第1期障害児福祉計画について提案し、以下の意見等をもらった。

- ・数字より質が大事であり、特に相談支援の質の確保が大事である。
- ・児童・教育との連携、パーソナルカルテ活用などが必要である。
- ・数値目標は増加するだけが良いのかとの質問等もあり、資源の不足が多いのでまだまだ増加見込みであると回答。
- ・共生型サービスについても盛り込むべきではないかとの意見もあったが、国でも大枠しか提示されていない状況であり、数字への反映はまでは出来ない状況。
- ・上記のように、自立支援部会にて議論したものは、ほぼ施策推進協議会でも通った状況。
- ・今後、パブリックコメントの手続きを進めていく事になる。

【各委員主な意見】

- ・共生型は、いずれ介護保険との共有等など詰めた議論が必要にはなるだろう。情報提供しながら進めていく必要が出てくると思われる。

(事務局)

次回自立支援部会：1月12日(金)午前10時～ 御園公民館講堂

○周知

伊勢市障がい者サポーター研修会：12月10日(日)

差別をなくしていくための県では唯一の取組み。

今回は松野明美さんを講師に、一番でなくて良い、生まれて来てくれてありがとうという内容。